

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270500764		
法人名	医療法人 牧山医院		
事業所名	グループホーム 虹(1階)		
所在地	〒856-0808 長崎県大村市黒丸町1653-1		
自己評価作成日	平成22年2月23日	評価結果市町村受理日	平成22年4月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

(虹1階) 利用者と共に生活している中で一人一人が生きがいが、楽しみ、やりがいが持てるような介護が支援できるように取り組んでおり、外食や花見などで季節感を感じていただき、散歩等で地域との関わりも増やしているように努める
(虹2階) グループホーム虹2においては身体的な機能低下の方も多く、スタッフは身体的及び社会的喪失感を十分理解し、機能低下防止のレクリエーション体操や戸外の散歩で季節感を感じたり、地域と触れ合うことで社会参加や体験、利用者さまの出来ることを見出し共に笑顔で生活できる環境作りに取り組んでいる。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	Hp:http://ngs-kaigo-kohyo.jp/
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7212 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成22年3月19日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利便性のよい住宅地に立地するホームは、理念に掲げられている医療連携により、家族の安心に繋がっている。町内の利用者の家族は、歩いて訪問できる。また、昨年12月に管理者の交替により、業務改善に取り組まれており、利用者本位のサービスの見直しにより、ゆったりと過ごせる雰囲気に努められている。業務優先ではなく、テレビ体操の時間は業務の手を休めて職員が体操をすることで、利用者が一人でも一緒に、自ら体を動かされるように自然体のやる気を育み、現時点では一緒に体操をされるようになり、利用者とは話が出来る機会も増え、職員にも気持ちにゆとりが持てるようになり、笑顔が窺えた。また、運営推進会議に参加の民生委員の要望を反映して、町の公民館で介護教室を予定されている。今後も、地域との結びつきに力を注げるように、できることの支援に取り組みたいとの意向を示され、期待できるホームである。
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらいと	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらい				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 職員の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 職員の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 利用者の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 利用者の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族等の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族等の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらい					
		3. 利用者の1/3くらい					
		4. ほとんどいない					

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	母体が診療所という安心感の中でゆったり楽しく自分らしく地域の一員として共同生活を送るという理念のもと、地域との関わりが持てるよう近所の理髪店等に行けるように努めている	職員は理念を意識して、ゆったりと楽しく地域との関わりを持てる様な支援の実践に繋がられている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との繋がりが持てるよう、回覧板の閲覧を行い、利用者が参加できることには参加したいと思っている。また、職員も地域の一員として町内清掃や公民館の清掃に参加している	運営推進会議に参加の民生委員の要望に応じて、町内の公民館で在宅における介護方法(寝たきり状態の起き上がり介助、排泄介助等)の介護教室を開催される予定となり、地域との結びつきの向上に会議が反映されている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩等を行い、地域の人々とのふれあいがもてるように支援している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、町内役員、市職員、民生委員、利用者のご家族に取り組み内容の報告と意見交換を行い、サービスの向上につなげている	今年度は、家族代表の交替を考慮されている。会議の開催は定期的開催が定着していて、参加者からの要望により、公民館で介護教室の実施を予定されている。地域力の向上に向けた反映が覗える。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に介護相談員の方に訪問して頂き、ケアについての相談や意見交換をおこなっている。わからないことも、市町村担当者に連絡を取り、協力関係を築くようにしている	昨年の12月に管理者が交替され、挨拶に行かれている。運営推進会議に出席して頂けるので協力関係の継続がとりやすく、電話での相談もされている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体で身体拘束をしないケアについて常に話し合いをし取り組んでいる。サイドレールについては利用者が起き上がりの際、補助具の役割として使用できるよう一本使用している。	日中、玄関の施錠はされておらず、安全に努めセンサーチャイムを設置している。又、常に身体拘束にならないケアを意識して、研修や話し合いの機会を設けられている。言葉の拘束にならない様に、職員相互に注意してその時に改善されている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	院内研修や外部の研修に参加し、学ぶ機会を設けるようにしている。職員ミーティングにおいても、研修内容を話し合い、日々のケアについても話し合っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、学ぶ機会を設けておらず。今後の課題として勉強し、支援できるように取り組んでいきたい		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に従い説明し、その際に利用者、ご家族が疑問に思うことや不安なことについて尋ね、説明をおこなっている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置を行い、意見や要望を伺うとともにご家族が来設された時にも要望やご意見を言って頂けるような関係作りに努めている	利用者の病的には甘い菓子を制限すべきだが「食べたい物があれば与えてほしい」との、家族の要望を受け入れられている。行事、敬老会、夏祭りに参加された家族が、ユニットごとに分かれて家族交流と意見・要望を伺い、対応に努められている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時話し合い、毎月のミーティングにおいても意見を出し合いよりよいサービスが出来るように取り組んでいる	業務の手順にとらわれず、掃除の時間の手を休めてテレビ放送の体操の時間を活用して、職員が体操していると利用者も共に体操をされるようになり、業務の改善により職員の気持ちにゆとりが持てたことで、利用者との会話の時間が増えた。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と管理者間での話し合いの場を設け、職員や職場環境などの状況報告し、就業環境の向上に努めている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に院内研修を開き、外部研修にも積極的な参加を促している		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や各駅停車などの同業者との情報交換ができる場への参加を行い、また相互評価を行いお互いのサービスの質の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居時にアセスメントを行い今までどのように生活されてきたか、現在の困りごとはなんなのかを知り、要望を伺いケアに取り組んでいる</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族と十分話せる機会をもち、不安なことや要望をうかがえる関係作り努めている</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご本人、ご家族との要望をうかがい自施設で出来ること出来ないことを見極め施設外のサービスも利用できるよように思っている</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>洗濯物たたみやおしぼりづくり等、ご本人と一緒に出来ることは一緒に共同するように心がけている</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>誕生会への参加や外出、外泊などご家族も一緒に参加していただき、共に支援していただけるような関係作りに努めている</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>現在対応出来ておらず、利用者の希望に応えられるように今後努めていきたい</p>	<p>利用者の気持ちを大切に、自宅の近くまでドライブに出かけたり、今後も家族の理解と協力を得て、馴染みの関係継続に努めていきたいと考慮されている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士の関係性を把握し、気が合わない方同士もおられるので、職員が間に入りトラブルがないように利用者同士が協力して支えあえるような支援作りに努めている</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ、関係機関に連絡し相談や支援に努めている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の希望を聞き、利用者の目線で物事を考え行動するように努めている。食べ物や衣類に関してもご本人が選択できるような声かけを行い、自己決定ができるよう支援している	利用者の意向を大切に、戸外への散歩へ行きたい思いを同行して支援されたり、バイキングでは食べたいもの選んでもらうなど自己意志を尊重して支援に努められている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人昔の話をうかがい、どのように生活されてこられたのか把握し、その人にあったケアが支援できるように努めている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、睡眠量、食事摂取量、排泄、身体の状態を把握し、体調をうかがいながら、そのひとに応じた毎日が送れるように支援している。また、機能低下の防止として、毎日体操も含めた、レクリエーションの参加を促している		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向を尊重しながら、ご家族面会時に現状を伝え、課題に対して共に話し合い対処していけるよう努めており、出来るだけ現状に即した介護計画になるように努めている	介護計画は、本人と家族の要望、意向をふまえて担当職員の意見及び他の職員の意見も集約して作成されている。3ヶ月ごとに担当が替わることで新たな課題が得られることもある。利用者の状況に応じ随時及び6ヶ月ごとの見直しをされている。	サービス目標と掲げているサービス内容の達成度・利用者の満足度・家族の意見などを踏まえて、総合的に評価することで次の計画への見直しに繋がるように取り組まれることに期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の利用者の様子やケアについて気づいたことについて記録として残しており、ミーティングなどで話し合い情報を共有し、介護計画の見直しに努めている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来ることに対しては常に積極的に支援をしていきたいと思っている。既存のサービスにとらわれず、ボランティアや幼稚園の慰問にも声をかけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現段階では協働できておらず。今後は、天気や利用者の状態をみて、散歩時などに空き缶拾いなどをしていき地域との関わりを持っていきたい		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の医院から週1回の往診と定期健診を受けている。そのほかの診療所についてはご本人、ご家族と相談し受診できるよう支援している	他科受診の際は、家族に「どういたしましょうか」と連絡をして家族の意向を伺い、同伴される家族もあり、常に報告において対応されている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師などに伝えて相談し、個々の利用者が適切な受信や看護を受けられるように支援している	利用者の異常を認めた際は看護師に相談、報告をし受診や訪問などの適切な看護が受けられるよう支援している		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体が診療所である事で、病院関係者との情報交換や相談は常に出来る状態にあり、必要に応じ協力医療機関との連携体制がある		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医とご家族、管理者などが話し合いをし、本人の状態を見極め、ご本人、ご家族の意向を尊重し希望であれば終末期においてもホームで看させていただくことが出来ることを伝えている	家族との面談の折、看取りについてはホームの指針をもとに説明をされている。昨年の看取りの事例に対しては、毎日看護師が対応して急変時は医師の迅速な対応が得られている。利用者の容態の状況に応じて、随時の話し合いを重ね医療支援に努められており、家族の宿泊も可能である。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変、事故発生時は母体の医院から看護師が訪問できる体制は整えているが、今後は職員の定期的な緊急対応法についても訓練していきたい		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防職員との火災訓練を行っており、連絡網も出来ており避難方法も身につけている	定期的訓練は、夜間を想定して2回実施されている。通報装置で消防署に連絡及び、利用者の避難誘導後の安全確認に9分経過かかり、地域の消防分団の参加、協力もえられている。利用者の顔写真入りの緊急時持ち出しファイルを作成されている。	自然災害の訓練及び訓練による反復に努められ、非常時の水・非常食等の最低限の備蓄と緊急時の関係機関の連絡網を早急に作成して掲示をされることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人に合わせた言葉かけや対応を行っている。職員同士で情報の交換をし、対応している	利用者への対応や言葉かけへの気づきは、その時点で伝え合い共有を図ると共に、穏やかに周囲への配慮を心がけ支援に努められている。書類は事務所にて管理されている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とのコミュニケーションを多く持てるように努めており、自己決定ができるような声かけを行い、思いを表せれるような支援を行っている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	会話をしながら、希望をうかがいパンを買いに行ったり、散歩等に出かけている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は選んでいただき、整髪は鏡を見ながら本人の好みを伺うようにしている		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みのメニューの取入れをしたり、食事時に使用するオシボリを作って頂ける様に支援している	家族から野菜を頂き献立を変更することもある。訪問日の献立の品数、味付け、彩りもよく刻み食も対応されている。利用者の状況に応じて、職員も一緒に食事をされており、利用者にも食材の下拵えなど、出来る範囲で一緒に調理をされる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態を把握し、一人一人に合った食事を提供に努め、刻み食などの提供をしている。水分に関しても摂取量を把握しており、牛乳やコーヒーなど好みの飲み物での水分補給を促している		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声かけを行い、ご自身で出来ない方には介助にて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁により気を落とされないよう十分に気をつけて声かけを行っている。定期的なトイレの声かけをおこないトイレで排泄できるように支援している	排泄チェック表で利用者の排泄の間隔や回数を把握して、声かけ誘導で血尿の観察、尿色、便の状態等を記録される。夜間時、オムツの使用でも昼間はリハビリパンツや布パンツの使用で、気持ちのよい状態で過ごせるよう支援に努められている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品も飲食の取り入れを行い、体を動かしていただくよう体操の取り入れも行っている。また、歩ける方は一緒に廊下を歩いたりして運動への働きかけをおこなっている		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日、時間帯は決めているがその日の利用者の状況に合わせて、本人の意思に添えるよう努めている	午前中に入浴していただき、行事の際は入浴できない時もあるが、利用者の要望に沿って毎日入浴支援はできる。入浴拒否の利用者には、職員がかわり声かけの工夫で入浴を促し、清潔に過ごせるように支援されている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	介助が必要な方は同じ姿勢が長時間続かないよう定期的に臥床の声かけを行っている。基本的に就寝はご本人のペースに合わせていただいている		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人名前を読み、手渡し服薬が終わるまで支援しており、飲み忘れがないか確認している		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、トランプ、カルタなどその人その人が楽しめることを一緒に行い日々を楽しく過ごしていただくようにしている		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な買い物への外出、散歩、また車での外食をおこなっている	職員と一緒に買い物や近隣の理美容室へ散髪に出かけられたり、車椅子利用の方もドライブや花見のほかにバイキングの外食など外出の支援に努められている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	ご家族と残金の確認を行い、手持ち金の確認を行う。買い物時利用者が支払いできるように一部介助行う		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	希望に応じて電話の使用は対応し支援している。年賀状を利用者と一緒に書き、ご家族に出している		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	常に見直し、居心地が良いよう努めている。季節の花や飾り物で季節感を取り入れている	歩行中に休息がとれるように、廊下に椅子を置いたり、一人で戸外の景色を眺められるよう椅子を設けられている。玄関には花を飾り、熱帯魚の飼育等なごみの空間や窓から見える景色に癒される。キッチンからの見守りと職員の明るい笑顔にささえられ、安心の表情で寛がれている。	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	リビングのソファーに隣同士座れるように配置。テーブルも自由に使えるようにしている		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	長年、自宅で使用されていた家具の持込や観葉植物の持込	家族の泊まりも可能であり、ベッドとクローゼットは備え付けである。テレビや筆筒の他に、馴染みの小物を持ち込まれ、鉢植えの水遣りを楽しみに過ごされている利用者もおられ、整理整頓が行き届いている。	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	居室に名札を下げており、自室とわかる様にしている。トイレも名札をつけ、場所をわかりやすくしている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270500764		
法人名	医療法人 牧山医院		
事業所名	医療法人 牧山医院 グループホーム 虹(2階)		
所在地	長崎県大村市黒丸町1653-1		
自己評価作成日	H22年2月25日	評価結果市町村受理日	H22年4月14日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	Hp:http://ngs-kaigo-kohyo.jp/
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7212島原商工会議所1階
訪問調査日	平成22年3月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果(グループホーム 虹2階)

[セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	母体が診療所という安心感の中でゆったり楽しく自分らしく地域の一員として生活して行くと言う理念の下、出来るだけ行きつけの美容院や買い物等ともに出かけるよう配慮している。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様が地域と繋がりながら生活できるようにと地域の回覧板を回していただけるよう手配しており、内容によっては参加するようにしたいと思っている。現在、施設行事の夏祭りや敬老会のお誘いによる交流はある。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解を深めていただけるよう地域内の散歩等を行い触れ合う機会を持つようになっている。また、支援方法等についても機会があれば伝えていきたい。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の役員に行政や家族、民生委員や老人会長等の方々が参加しておられるためその中で、サービスの実際と変化、ご家族の希望や行政からの指導、地域の状況からの貴重なご意見を頂きより良いサービスの向上に繋がっている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者には疑問等があった場合連絡を取り回答を貰っている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が身体拘束に関しては理解しており、玄関は常に解放し、ベットの柵についても利用者様の補助具の利用で1本のみ使用しており、言葉に関してもご利用者様の意思を尊重し、言葉による拘束にも配慮している。		
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法について学ぶ機会がなかったため現在、資料準備中であり勉強会をおこなう予定。ご利用者様の対応に関しては言葉にいたっても虐待になることは指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年12月より職員の大きな変動あり、日常生活自立支援事業や成年後見人制度については全スタッフの理解まで至っていない。今後、早急に勉強しいつでも支援できるよう取り組みたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に従い説明を行い、ご利用者様やご家族様の不安や疑問点については納得いただけるよう説明をしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃よりご利用者様やご家族様とのコミュニケーションに努め、要望や意見を言っただけの関係作りを心がけており、ご意見等あればスタッフと検討し反映させるようにしている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングにおいて職員の意見やアイデアなど話してもらい前向きに検討しより充実したサービスに繋げる様に取り組んでいる。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と管理者間で毎月ミーティングの時間を取っており、スタッフや職場環境等の報告をし情報の共有を行っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者はケアの充実を求めており、法人内の勉強会や研修への参加等は積極的にすすめるよう勧められている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当地はグループホーム協議会や各駅停車という活動があり、相互評価活動やそこに参加することにより同業者と交流し、より良いサービスの資質向上となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居されるに当たりご利用者のアセスメントを十分行いどのような生活をされたか、どのように生きてこられたか、今の現状での困り事は何か等その方を知り寄り添いのケアをしていくことに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居に辺り、ご家族様と十分話せる時間を持ち、お困りのことや不安・要望等に耳を傾け話し易い関係作りに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居に当たり、ご本人様やご家族様のお話を十分聞き、施設内外に留まらず広い視点でのサービス利用も考えて行けるよう考えている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご利用者の生きてこられた生活を大切に出来ることは一緒に共同するよう心がけている。		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様がこれまで築いて来られた生活歴や関係を十分理解し、絆や利用者様に対する思いを大切にしながらご家族にしか出来ない役割を尊重し協力体制をとって行けるよう普段からコミュニケーションをとり、話し易い環境の設定に努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の希望により行きつけの美容院等があれば出向くようしている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様によっては気が合わない方もある為、ミーティングの際、スタッフ間で情報交換を行いご利用者様間トラブルを避け、利用者様同志が協力した関わりが持てるよう共同作業やレクレーション等の機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても必要であれば相談に応じ、支援を行って行きたい。		
、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活史を聞く機会を持ち、どのように生活して行きたいと思われているのか、認知症でなかったらどのように生活されていたか等、出来るだけ利用者様サイドの目線でみる様にし、飲み物や洋服なども本人に尋ね選択の機会を持っている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴やどのような自分らしい暮らしをされていたのかを知り、編み物や新聞閲覧など、その方が毎日日課にしていたことなど取り入れ自分らしさを活かせるケアに努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご入居者様の食事や排泄、身体状況の把握を行い、ご本人様の体調を伺いながら、その方に応じた日々の生活を送っていただき、機能低下防止もあり毎日レクリエーションも含めた体操や軽作業等の声かけを行い自分の意思で参加できる機会を提供している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様の意向を尊重しながら、ご家族の面会時等に現状を伝えるようにしており、課題に関してご家族と共に考え対処していけるよう話し合いをしている。出来るだけ即した介護計画になるよう努力していく。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご利用者様の様子やケア会議等で話し合い実践して気づいた事は日々の記録として記載するようにしており、ミーティングにおいて情報の共有を行う様にしている。介護計画においても活かすようにしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームを生活の場と捕らえている為様々なニーズは有るものと思っており、特に既存のサービスに囚われず、ニーズによっては社会的資源の活用も考えており、老人会やお話ボランティアなどへの声かけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状では地域資源との協働は出来ていないが、今後利用者様の心身の状況等を考慮し、散歩時の空き缶拾い等地域に貢献し生活する楽しみを考慮していきたい。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在、かかりつけ医は母体で医院であり週1回の往診と定期検診で健康管理されているがその他の診療科においてはご家族及びご本人と相談し受診できるよう支援している。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職はご利用者様のバイタルチェックを毎日行い、食事状況や排泄状況・入浴時に全身状況を把握し、異常を認めた際は看護師に相談したり、受診し適切な医療の提供の支援を行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体が診療所である事と毎週往診がある為、病院関係者との情報交換や相談は常に出来る状態にあり、必要に応じて協力機関への紹介等の連携体制がある。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	母体が診療所であり疾患による場合はご家族と担当医等とグループホーム管理者等と話し合いを持ち、ご本人様の状況を見極め、ご家族の意向を尊重しながら必要であれば入院治療を提供し、終末期についても意向を伺うようにしており、希望であれば終末期になっても住み慣れたこの場所で看て行ける事を伝えている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や応急手当については実践力は付いているため、対応は出来るが連絡により協力機関より看護師が駆けつけて貰える体制はあるが、今後、定期的な訓練も今後取り入れて行きたい。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練の際、地域の消防団とスタッフが合同で訓練しており連絡網により体制は出来ており、避難方法も身に付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活歴を知り、その人の性格や人格を尊重しご本人様の意向を尊重しながら対応している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に利用者様とのコミュニケーションを多く持つようしており話し易い関係を持てるよう取り組んでおり、自己決定できる事による自分らしさを出せるよう取り組んでいる。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな週間の予定はあるが入居者様の状況や希望によっては買い物や散歩・理美容等に行くようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣や身だしなみ等の手伝いを行う時、(入浴時やお出かけ時など)本人の好みを聞きながら準備するよう心がけている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の希望や昔作られていた料理等を伺い取り入れたり、簡単な野菜の下準備をして貰う事はあるものの習慣化しておらず、今後ご利用者様の力を考えて出来るだけ食事を楽しみにしていただけるような支援をしていきたい。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者様一人ひとりの状態が違う為、身体状況を把握し水分や摂取状況、嚥下状況、栄養状況・排泄等も把握に努め、状態にあった食事提供や水分管理に配慮し普通食・刻み食・ミキサー食等の対応している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアに努め、自分で出来る方も見守りを行い出来ない方においてもご本人様の口腔状態に応じて舌ブラシやマッサージブラシ等使用し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄介助についてはご利用者様自体においても職員においても気を使う部分でもあり、失敗により気を使ったりされないようプライバシーの尊重を来がけて居る。また、レクリエーション時失禁体操を取り入れ尿漏れの改善に取り組んでいる。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日レクリエーションを行い全身を使えるような運動を行ったり、水分摂取状況や歩ける人いたり、食事も野菜を多く取れる食事の提供を心がけている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴に関しては基本的に曜日が決まっておりますそれに合わせてご本人様に入浴の意向を伺うようにしており体調不良や入浴意向無い時は翌日など希望に沿うようにしている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝準備はほとんど介助を要しご本人様ペースで就寝準備を行い、状況に応じてホットパックやマッサージ・体位変換等を行ったり、温かい飲み物で対応したり安眠できるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在、一人ひとりの薬が判る様整理し臨時薬においても何時、何日分の処方があったか記載するようしており、必ず薬状を頂きいつでも見れるようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来るだけ生活の場の提供をと考え洗濯たたみや買物など取り入れるようにしており、今まで楽しまれてきた趣味を活かせるよう編み物・季節の飾り物の共同制作などの取り組みをしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望は日頃より伺うようにしており希望あれば予約を入れたりご家族にも連絡をいれ協力してもらっている。今後、普段行けないところであっても検討をしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様の希望があればお金の所持は可能であり、実際、数名は自己管理されており買い物に行かれご自分で支払いされている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望の時掛けられており、特に制約はない。手紙については年賀状を書きいただき出す程度の支援に留まっている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下・居間等は適度な広さもあり和室も兼ね備えていることからより生活を感じさせる空間となっており、玄関やリビングは季節の花や装飾に配慮している。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファがあり気のあった方同士で座られていたり、気分によっては自室に戻りテレビを見たりされている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやタンス等は提供が多いが小物についてはご家族やご本人様の好みのもを置かれており居場所としての空間の提供となっている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は一人ひとりにとって十分な安心の場所になっているが、出来ること、わかることを活かす支援にいたっていない。		